

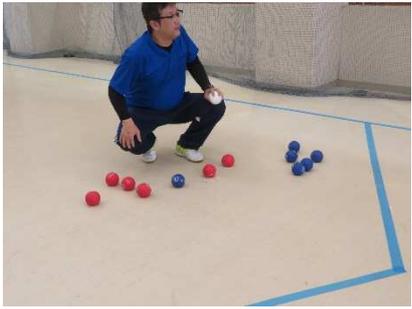
令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【愛媛県】

学校名【西条市立小松中学校】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者	対象学年：1年 2クラス 63人
3 展開の形式	総合的な学習の時間 テーマ「共に生きる」)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック、パラリンピックの意義や精神、歴史を学ぶことで、多様性を尊重し「共に生きる」社会を目指そうとする意欲を育てる。 ○ パラスポーツの競技を実際に体験することで障がい者スポーツへの理解を深め、パラスポーツの意義やスポーツのもつ価値についての関心を高める。
5 取組内容	<p>(1) インクルーシブな社会を考える。 オリンピック・パラリンピックの大会の精神を学び、共生社会に向けて今、自分ができることは何かを考えていこうと呼び掛けた。</p>  <p>(2) パラスポーツ体験講座 愛媛県障がい者スポーツ協会の方を講師としてお招きし、ボッチャ・ブラインドサッカー・フライングディスクの三種類のパラスポーツを体験した。</p>    

	<p>(3) ポスターセッション パラリンピックやパラスポーツについて学んだことをもとに調べ学習をし、ポスターセッションを行った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習と体験講座 オリ・パラの意義を事前学習したことで、多様な特性をもった人とともにスポーツを楽しむことは、互いの特性を理解しながらルールを作り、認め合いながらともに楽しむことが大切であることを実感することができた。 ○ ポスターセッション パラスポーツだけでなくパラリンピックの開催に関する知識や車いすや義足などへの理解も深まり、開催に当たっては多大な人の支えが必要であることを知ったことでインクルーシブな社会を支えていこうとする意欲が高まった。 また、この後に行った人権学習においても、障がい者に対する理解の深まりが見られ、人権意識が高まったことがうかがわれた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当者だけでなく、担当学年の教員全員で、パラリンピックやパラスポーツについて学び、指導を行った。 ○ オリンピック・パラリンピックの意義についての学習を行った上でパラスポーツ体験講座を行った。 ○ 最後のまとめとして、調べたことをポスターセッションの形で発表し合った。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラスポーツ体験は本年限りでなく、継続しての体験学習を行っていくことで、障がい者の社会参加への理解がよりいっそう深まっていくと思われる。 ○ 時期が合わず実現することができなかったが、実際のパラリンピアンに来ていただくことができれば、生の言葉をお聞きすることができ、学習がいっそう深まったと考える。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機会があれば、オリンピック・パラリンピックにかかわる授業や講演会などを実施したい。 ○ 「総合的な学習の時間」にパラスポーツ体験を位置づけ、毎年の実施をすることで、インクルーシブな社会の実現を目指したい。

